

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100459		
法人名	社会福祉法人ふるさと自然村		
事業所名	グループホームタヤけ小やけ		
所在地	高知市神田1002-1		
自己評価作成日	平成24年7月20日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に沿って、入居者の個性や思いを大切に、役割を持ち生き甲斐と楽しみのある毎日を支援している。日々の地道なケアを大切に、一人ひとりに寄り添い尊厳の保持を第一に、共に生活し、共に生きる姿勢に努め笑顔を提供し、夢の世界を楽しんで、余病の予防に繋がるケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年8月21日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は新興住宅地の中にあり、町内会としての行事等は少ないが、地域の市場、量販店、温泉等に立ち寄って住民との交流を図ったり、毎月訪問してくれる地域のボランティアによる踊りや歌と一緒に楽しむなど、地域との交流に努めている。また、管理者は、利用者が自分の役割を持ち続けられることが一番大切なことで、そのためには利用者の自立を出来る限り支援することが事業所の役割であると考えており、利用者の変化を早期に発見できる職員の観察力を養うことに力を注ぐとともに、利用者個々に課題を洗い出し、目標を作り、「できている」「できていない」を全職員で話し合っ、自立支援に向けた取り組みを行っている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:タやけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時、声を出し理念を共有して、安全で安心な暮らしを支援し、笑顔の絶えない毎日を心掛けている。	「その人らしさを大切に、生きがいと楽しみのある毎日を作り、地域の中で共に支え合い、安全で安心な暮らしを支援する」という理念を作り、毎月のミーティングや日々のケアの中で確認している。日々の生活の中では、病気等の早期発見による健康維持と利用者に出ることをしてもらい自立支援を主眼に置き、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民と散歩時に声を交わしたり花を頂いたり、又地域市場への立ち寄り時、住民との交流を図っている。月2回図書館に出向き、地域の情報を得たり、毎月ボランティア来所時に交流を深めている。	町内会の行事等は少ないが、月2回、近くの図書館に行き、地域の情報等を収集したり、散歩等で地域の市場に立ち寄り、住民との交流を図っている。また、毎月10人ぐらいのボランティアが来所し、踊りや歌と一緒に楽しんでおり、フラダンス等を行う時は家族や地域住民も集まっている。10月には地域の婦人会主催でバザーも計画している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会やボランティアで来所時、パンフレット・しおり等を通して認知症への理解をしてもらえるようにしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月毎に介護付き有料老人ホームと共同開催し、事務所の活動状況等を報告し、各委員の意見情報を取り入れサービスの向上に繋げている。	同一建物の2階、3階にある介護付き有料老人ホームと一緒に運営推進会議を開催している。避難訓練についての意見や利用者の健康について家族からの意見等が出ているが、共催ということで介護付き有料老人ホームの利用者からの発言や意見が多く、グループホームについての個別の意見交換が少なくなっている。	重複する参加者の調整等困難な面もあるが、グループホームとしての運営推進会議をより活発にし、運営に活かしていくためにも、時間や日程の調整を行い、単独で開催することを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の研修には積極的に参加し、運営推進委員会やグループホーム連絡会を通して協力関係を築くよう取り組んでいる。	昨年12月の事業所の開設に当たって、市の担当者とは頻りに打合せ等を行い、その後も協力関係が継続している。また、地域包括支援センターや福祉の担当者とも日頃から情報の交換を行っており、積極的に連携を図っている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会やフロア会を通じ、身体・言葉の拘束について職員の意識を高め拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修時、必ず身体拘束をしないケアを指導している。	身体拘束廃止・虐待防止委員会を作り、法人内研修や毎月のフロア会でも勉強し、確認し合っ、身体拘束をしないケアに努めている。転倒リスクのある利用者について家族からコールマットの使用を求められたが、転倒原因となる起床時の対応をより充実させることにより、コールマットを使用しなくて済むようにするなど、個々の利用者に応じたケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を通じ、勉強会に参加したり新人研修にも取り入れ、福祉従事者の責任をフロア会で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け、制度を理解している。職員にもフロア会で制度について話し合い、相談時には活用できるように支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要書類・契約書に基づき、解約・改定・リスク面も含めて説明し、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や電話で家族の意向を確認し、情報を共有し、職員は気軽に何でも話してもらえる雰囲気を作り、コミュニケーションを大切にして運営に反映させている。意見・要望等を掲示している。	7月に家族会を開催し、7家族10名が参加している。家族同士で話し合える機会も設定し、オムツが無くなる前に連絡が欲しい、塩分・カロリーの情報が欲しい等利用者の生活に係る要望等が寄せられ、直ぐに対応し運営に反映させている。家族面会時にも、家族と利用者がまず面談し、その後家族と職員で話をするなど、家族や利用者の本音を汲み取る工夫をしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のフロア会や申し送り時等に意見・提案を聞き、ケアに生かしたり業務分担等を見直している。入居前面接・入居時検討会・判定会にも参加し、運営に反映させている。	毎月のフロア会で利用者のケアに関すること、行事のこと、勤務シフトのこと等、職員から意見や要望を聞き、月1回の理事長往診の際に管理者から理事長に提案し、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員との面接機会を設け、勤務状況を把握し、職員間の和、情報の共有を保ち、やりがいのある職場環境を作り、向上心を高めていけるように整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での勉強会や新任時の定期研修・施設内での勉強会を計画し、日々の地道なケアを大切に、資質向上を図っている。 法人経営のヘルパー養成所で働きながら学んでいる者もいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交流会を図り、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ち、相互方向等を通じ、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や施設等に訪問し、家族、担当ケアマネ等に心身状態や生活状況を確認し把握すると共に、意向なども十分理解し信頼関係を築くように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前の面接や入居時に生活状況や家族の要望・不安等を傾聴し、関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向などを基に、必要としている支援を他のサービス利用も含めて検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に敬意を持って接し、共に生活し共に生きる事を大切に、本人本位の暮らしを営んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、面会時や電話連絡で日々の様子を伝えたり、又本人が家族と電話で話す機会を持ち、家族の意向を聞きながら支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟の協力を得ていたり、職員が関わって行き慣れた美容院・スーパー等に出向いたり、自宅に帰ったりこれまで培ってきた関係を大切に支援している。	近隣に居住していた利用者が4名、その他の利用者も市内の比較的近くからの入居であり、知人等が連れだって訪問してくれたり、近くの有料老人ホームの知り合いが訪ねてくれるなど、馴染みの関係は築かれている。また、正月に自宅に帰ったり、行きつけの量販店に買い物に行くなど、馴染みの場所の関係継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事や行事を通じて入居者同士が支え合い、良いつながりを持っている。又職員が交流の手助けをするなど良い関係となるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお見舞いや訪問等を行い、これまでの関係を大切にし、相談や支援に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントを職員で共有し、入居者の会話・表情・行動などから希望や意向を把握している。困難な場合は家族や、生活歴などから本人の立場に立って検討している。	入居時に生活歴等の情報収集を行い、入居後は一緒に食事を作ったり、片づけをしたりする中で、何げなく本音を引き出すようにして、利用者の思いや意向を把握するようにしている。意思表示が困難な利用者には、家族等関係者から話を聞くだけでなく、些細なことでもスタッフの観察力を活かし、利用者の思いを理解するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントを共有し、本人や家族から生活歴等を聞き、毎日の関わりの中で情報を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援表を作成し、日々の暮らし方、心身状態、できる事など、一人一人の状況を総合的に把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者が安全で安心にその人らしく生活する為に、本人、家族の意見・要望を聞き、日々のケアの中での気づきや疾患等を職員間で話し合い、介護計画を作成している。	家族からは面会時や紙オムツ持参時等に話を聞き、一緒にアセスメントも行い、担当職員の意見を基に職員間で話し合っ、介護計画を作成している。基本的に計画は3か月ごとに見直しているが、モニタリングを月1回実施していることから、その結果で見直しを行ったり、利用者の急な変化に応じた見直しもを行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、看護師による健康管理、状態を個別に記録している。職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに繋げている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況により、通院や買い物、姉妹宅訪問等、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の代表者から地域情報収集に努めたり、地域市場や地域の住民に協力を得て、食事・買い物・散歩等の中で生活を支える関係作りをしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。必ず情報提供書を持参し、職員が付き添って受診している。	入居時に、母体法人の医療機関を含む協力医療機関をかかりつけ医にしている利用者もいるが、基本的に希望する従前からのかかりつけ医を継続受診できるように支援している。希望するかかりつけ医に受診する場合は職員が必ず付き添い、情報提供を行い、適正な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、看護師による健康管理帳を介護職員と共有し途病の予防に努め、個々の利用者様が適切な医療・看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には見舞いに行き、主治医に状態確認をし家族や病院関係者との情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、対応できる支援について説明し同意を得ている。 家族の意向に沿った終末期の支援体制はできている。	入居時に看取りの指針等の説明を行っている。入居後状況が変化した時に、家族と医師である理事長、管理者で話し合い、同意をもらうことにより、状況に応じて家族等の希望に沿った支援ができるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、急変時や事故発生時に対応できるようにしている。新人研修やフロア会等で定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を予定している。マニュアルに沿って連絡網を作成し、地域住民の協力も得る事できるように町内会長を通じて協力体制をお願いしている。	今年3月の第1回の火災訓練に地域住民の参加が無かったため、その後の運営推進会議で、建物3階を近隣住民の避難場所にすることが提案され、9月には近隣住民の避難を含めた訓練を実施することになっている。また、東日本大震災の被災施設の施設長を法人が招き、講演で生の声を聞き、職員の災害への心構えを深めている。非常用食料等は必要量を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人に敬意を持った言葉掛け、対応を心掛けている。 排泄や入浴時も人格やプライバシーを損ねない気配りをしている。	利用者の人格の尊重とプライバシーの確保については、法人内の研修や事業所のフロア会で周知徹底している。利用者との個別の話は必ず居室の中で行い、入浴も一人ひとりゆっくり体を休めてもらい、トイレも各居室に設置しプライバシーの確保をするなど、利用者本位の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・散歩・食事作り等の会話の中で希望や思いを汲み取り、自己決定してもらう場面づくりを支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしさを大切にし、基本的な日課はあるが可能な限り希望に沿って過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	法人内での月2回の訪問美容院があり、家族に声掛けしカットができるように配慮したり、希望により衣服の買い物にも散歩がてら職員が同行する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を繁栄した献立も作成したり、月に何回、外食や皿鉢料理を提供して好みの物を食してもらっている。準備や片付けは常に一緒に行っている。	法人が運営する有料老人ホームの栄養士にカロリー表を作ってもらい、事業所で献立を作成している。材料は利用者と一緒近くの量販店に買い出しに行ったり、一週間に1回来る移動スーパーで購入して調理している。利用者は食事の準備や後片づけを一緒に行い、職員も利用者と同じものを食べて食事の時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量・水分量を確認し、把握している。状態に応じて量・形態等に気配りし、必要量摂取できるように場所、時間など柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回必ず口腔ケアの声掛けや介助にて施行し、確認し、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、日中はトイレ誘導を行い、職員が同じ姿勢で自立に向けた支援に努めている。	日中はもちろん夜間もパッド使用者は2名だけで、オムツの利用者はいない。入居前に昼夜オムツを使用していた利用者が、食事や水分補給量の改善によりパッド使用だけで良くなるなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の白湯を提供したり、献立に根菜類やスープ類を毎回取り入れ、水分・運動量を把握し便秘予防に努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り希望に沿って時間を十分に取って支援している。拒否がある入居者にはタイミングを図ったり声掛け誘導を工夫している。	平均して週2、3回、少なくとも週2回は入浴できるようにしている。毎日シャワーを浴びる利用者もあり、希望すればいつでも何回でも入浴できるように努めている。入浴を勧めると「昨日入浴したから」と言って拒否する利用者があるが、洗面器に日本手拭いや石鹸を入れて雰囲気を変えて誘ったり、言い方を変えて誘うなど、工夫して入浴できるように支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるように満腹感、保温、適度な運動を提供している。又、体調に応じて日中に休憩時間を取り入れている。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人全体で勉強会を設け、知識を深めている。また目的、副作用の理解を得る為に薬名・効用等を記載したカードを一人一人に作成し、情報を共有している。服薬時は必ず職員2人で確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で一人一人の嗜好や感性を大切に、理解し、外出や散歩、食事作り・花作り、行事等に役割や趣味を通じて楽しみを持てるように支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や地域の中の量販店に買い物に出掛けている。入居者の意向を聞き、ご家族や店のオーナーの協力を得て外出を楽しんでいる。季節の草花の鑑賞・食事会にも全員参加できるように支援している。	日常的に近隣にある地域の市場、温泉、量販店まで散歩や買い物に出掛けている。外食にも月1回出掛けており、季節ごとの行事として車2台に分乗し、花見や行楽にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の管理能力・楽しみを考慮し、家族の来所時に確認しながら移動販売・量販店での買い物時、支払ってもらうよう支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族や友人への電話利用を支援している。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり季節感のある物を共同作成し、毎月ホール・玄関に飾っている。 光や温度の調節に留意し、居心地良く過ごせるようにしている。	建物1階に位置するワンフロアの事業所は、中庭を挟んでそれぞれのユニットがあり、広い廊下で繋がっている。食事、作業、趣味などを行う机と椅子や、利用者がテレビを見たりゆっくり休んだりするソファを配置し、思い思いに過ごせるように配慮している。机の配置は利用者の状態に応じて適宜変えたり、飾り付けも季節感を感じられるように季節の花を活けるなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、くつろぎの居場所作りをしたり、両フロアの行き来をしたり気の合った入居者同士で花の水やり、管理をできるよう見守っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人・家族に馴染みのものを持ち参し居心地良く安心して過ごせるように配慮している。	ベッドとタンスは備え付けであるが、居室のスペースが広いので、思い思いのテーブルやイス、収納小物等を持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。また、家族の写真を飾り、位牌や遺影をタンスの上に置いて思い出を大切にするなど、利用者の生活を大切に支援を行っている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室毎にトイレ設置をし、気兼ね無くゆっくりと対処できるようにしたり、フロア、廊下にも手摺りを設けてバリアフリーの中で安全で出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:小やけ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時、声を出し理念を共有して、安全で安心な暮らしを支援し、笑顔の絶えない毎日を心掛けている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民と散歩時に声を交わしたり花を頂いたり、又地域市場への立ち寄り時、住民との交流を図っている。月2回図書館に出向き、地域の情報を得たり、毎月のボランティア来所時に交流を深めている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会やボランティアで来所時、パンフレット・しおり等を通して認知症への理解をしてもらえるようにしている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ニカ月毎に介護付き有料老人ホームと共同開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見情報を取り入れサービスの向上に繋げている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の研修には積極的に参加し、運営推進委員会やグループホーム連絡会を通して協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会やフロア会を通じ、身体・言葉の拘束について職員の意識を高め拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修時、必ず身体拘束をしないケアを指導している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を通じ、勉強会に参加したり新人研修にも取り入れ、福祉従事者の責任をフロア会で話し合い、虐待防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け、制度を理解している。職員にもフロア会で制度について話し合い、相談時には活用できるように支援している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要書類・契約書に基づき、解約・改定・リスク面も含めて説明し、理解を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接時や電話で家族の意向を確認し、情報を共有し、職員は気軽に何でも話してもらえる雰囲気を作り、コミュニケーションを大切にして運営に反映させている。意見・要望等を掲示している。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のフロア会や申し送り時等に意見・提案を聞き、ケアに生かしたり業務分担等を見直している。入居前面接・入居時検討会・判定会にも参加し、運営に反映させている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員との面接機会を設け、勤務状況を把握し、職員間の和、情報の共有を促し、やりがいのある職場環境を作り、向上心を高めていけるように整備に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内での勉強会や新任時の定期研修・施設内での勉強会を計画し、日々の地道なケアを大切に、資質向上を図っている。 法人経営のヘルパー養成所で働きながら学んでいる者もいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通じて交流会を図り、定期的に法人内の事業所と研修する機会を持ち、相互方向等を通じ、サービスの向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅など訪問と心身の状況や生活状況など把握し意向も十分聞き入れできるように柔軟な対応を伝え安心感が得られるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に十分傾聴し、不安感や困っていることを把握して良い関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の意向を検討し、今必要としている支援と他のサービス利用を含めて対応に努めている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に入居者を敬い意志を尊重しながら共に生活し、共に生きていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人と家族の関係を大切にし、日々の生活の様子を面会時や電話で伝え、共に本人を支え合えるように支援している。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力を得て、美容院や馴染みの場所に行ったり職員と自宅周辺の散歩、買い物をしたり又、近所の方や、親族の面会を受けたりされている。これまでの暮らしが継続できるように支援している。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>家事や行事を通じて入居者同士が支え合いにつながっている。又職員が潤滑油となり交流の手助けをし、良い関係となるように支援している。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後もお見舞いや訪問等を行い、これまでの関係を大切にし、相談や支援に努める。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前のアセスメント表で意向、希望を把握し職員間で共有している。困難な場合は、家族に聞いたり、生活歴から思いを汲み取るようにしている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境をアセスメント表で共有している。日々の生活の中で情報を把握するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援表を作成し、日々の暮らし方、心身状態、できる事など、一人一人の状況を総合的に把握している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のフロア会でケアの実践状況や気づき等を共有し、本人・家族からの要望を聞き、その人らしい生活が送れるように介護計画を作成している。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、看護師による健康管理、状態を個別に記録している。職員間で情報を共有し、ケアや介護計画の見直しに繋げている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況により、通院や買い物、姉妹宅訪問等、柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の代表者から地域情報収集に努めたり、地域市場や地域の住民に協力を得て、食事・買い物・散歩等の中で生活を支える関係作りをしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。必ず情報提供書を持参し、職員が付き添って受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、看護師による健康管理帳を介護職員と共有し途病の予防に努め、個々の利用者様が適切な医療・看護が受けられるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には見舞いに行き、主治医に状態確認をし家族や病院関係者との情報交換や関係作りに努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、対応できる支援について説明し同意を得ている。家族の意向に沿った終末期の支援体制はできている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、急変時や事故発生時に対応できるようにしている。新人研修やフロア会等で定期的に学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を予定している。マニュアルに沿って連絡網を作成し、地域住民の協力も得る事できるように町内会長を通じて協力体制をお願いしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重して、排泄・入浴などのケアの場合では、プライバシーを損ねないように対応し言葉づかいには十分気をつけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して、希望が気軽に言えたり、選んでもらえるように自己決定してもらう場面作りを支援している。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の中で意向を把握しながら基本的な日課はあるが希望を第一に入居者のペースに合わせた1日を支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に衣服を選んでもらったり整髪を見守ったりし、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように家族に協力してもらい化粧品も準備されている方もいる。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を繁栄した献立も作成したり、月に何回、外食や皿鉢料理を提供して好みの物を食してもらっている。準備や片付けは常に一緒に行っている。		
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量、水分量を確認し、把握している。又状態に応じて、量、形態等に気配りし、必要量摂取できるように場所、時間など柔軟に対応している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	感染症予防を含めて毎食後口腔ケア、介助まで支援清潔保持に努めている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、時間毎誘導、声掛け等を行い出来るだけ自室トイレでの排泄を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の白湯を提供したり献立に根菜類やスープ類を毎回取り入れ、水分、運動量を把握し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に沿って入浴支援をしているが、拒否がある時はタイミングや声かけを工夫して入浴できるように支援している		
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度の運動、満腹感、十分な水分に常に留意して安眠できるように支援し、体調により昼間の臥床等柔軟に対応している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人全体で勉強会を設け知識を深めている。又、目的・副作用の理解を得る為に薬名・効用等を記載したカードを一人ひとりに作成し、情報を共有して服薬は必ず職員二人で確認している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や散歩・歌や家事など役割や趣味・楽しみを把握し職員も常に関わりながらその人らしく過ごしてもらえるように支援している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	小人数で日常的に散歩や地域の元気市場に出向いたり家族の協力を得て外出に出かけてる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て事業所で預かり、外出時のジュース・アイスクリーム・移動販売を楽しんでもらい支払いの見守りを支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には家族や友人に電話利用を支援している。携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾ったり季節感のある物を共同作成し、毎月ホール玄関に飾っている。光や温度の調節に留意し、居心地良く過ごせるようにしている。		
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやソファを置きくつろぎ居場所作りをしたり、両フロアを行き来したり、気の合った入居者同志で花の水やりや管理を出来るように見守っている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に使い慣れた物や落ち着いて過ごしてもらえるように馴染みの物を持参してもらい工夫している。(愛着のあるテーブル・椅子・写真・仏壇等)		
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室毎にトイレ設置をし気兼ねなくゆつくりと対処出来るようにしたり、フロア・廊下にも手すりを設けてバリアフリーの中で安全で出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない